

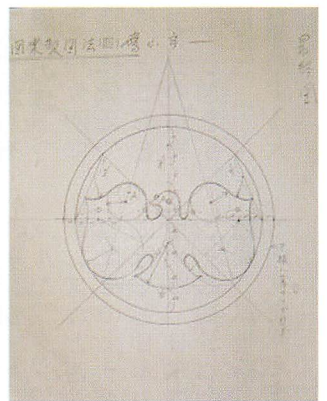
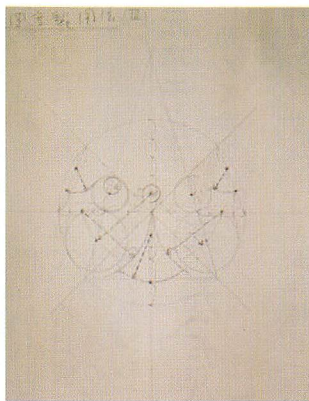
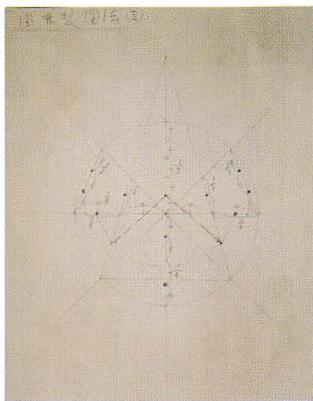
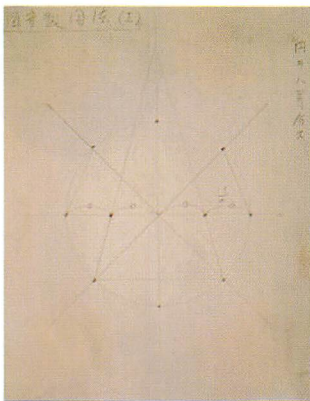
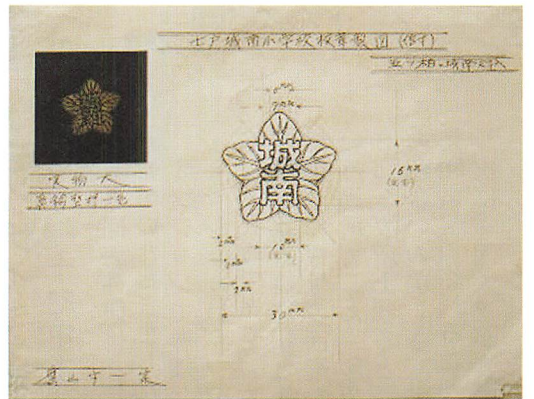


SUPPORTERS CLUB NEWS

友の会 会報

TAKAYAMA-UICHI MEMORIAL MUSEUM OF ART

〒039-2501
青森県上北郡七戸町字荒熊内67-94
七戸町立鷹山宇一記念美術館内
鷹山宇一記念美術館友の会
<TEL>0176-62-5858 <FAX>0176-62-5860
<e-mail>takayamamuseum@ruby.plala.or.jp



■鷹山宇一のデザイン「七戸町立城南小学校校章図案」(1963年)と「七戸町立七戸幼稚園徽章図案」(1966年)■

ミュージアムコレクション 鷹山宇一のデザイン ⑪

「画家のデザイン」というと、スケッチのような「ラフなデザイン」、そして、確立された画風を彷彿させる「画家の作品になったデザイン」を、ついつい思い描いてしまいます。

今も変わらず、七戸の子どもたち、町民に親しまれ愛されている今回ご紹介のこれらは、生まれ育つたふるさとの小学校と幼稚園のために、画業40年を迎えようとする50代後半の鷹山宇一がデザインしたものです。城南小学校の校章については、当時のPTA会長宛ての書簡に、その考案理由を次のように記しています。

校章図案の件、あれこれ苦慮のすえ、結局

- 一、七戸町に縁のもの
- 二、町民の皆さんが見て納得のいくもの
- 三、嫌みのないもの

以上の想定のもとに、平凡なものの程親しみが沸くのではないかとの結論に達し、新形式のものは一切やめて図案した結果、五つ柏に城南の文字を配したものが出来ました。校旗の方は、柏は金、城南の文字は銀、布地は濃緑色にしたいと思っています。

いづれも定規、コンパスを用いて、角度や大きさの指定も明確に丁寧に記され、七戸幼稚園の徽章では、4枚に渡って製図法まで事細かに指示されています。精密で凝ったこれらの図案は「プロのデザイナーの仕事」と言ってもおかしくはありません。

鷹山の一生を振り返っても、デザインを学んだという記録は見つかりません。しかし、「絵を描くこと」だけで見事に一家を養い、画家として終わりを全うした鷹山は、画壇に発表する「作品」だけと対峙してきたわけではなく、小説のカット、理科や算数の教科書の挿絵なども経験した時代があります。依頼された仕事にも真摯に取り組んできたことを、画家の自由気儘な作品に仕上げることをしなかつた、これら校章・徽章をはじめとする資料たちからも窺い知ることが出来ます。仕事の内容をよく承知し、核心が何か？を決して見失わないこと。鷹山宇一の仕事に対する姿勢を垣間見る思いがします。

そして、何よりも、鷹山のやさしい心遣いを深く感じずにはられない、貴重な資料たちです。

〈宇一書画 大沢甲希子〉

第3回友の会海外研修旅行 6月2日～9日

南仏・パリ名画の風景と

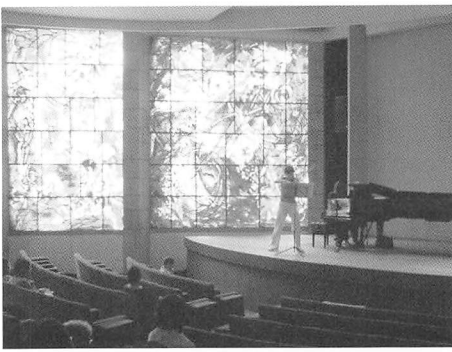
印象派を訪ねて 旅行記 3

南仏の旅を終えて

東北町 原田恵美子

初めてのフランスの旅は私にとって何もかもが別世界でした。美術館巡りはもとより、行く先々の景色が珍しくて右往左往していました。シヤガール美術館では壁面にモザイク画があり、ステンドグラスの部屋は小ホールになっていて、ピアノ伴奏でヴァイオリン・ソロのライブをやっていました。(なんとおしゃれな！)

セザンヌのアトリエは北側全面ガラス張り。採光を考えた結果とのこと。意外とこじんまりしていました。天井が高かったので広く感じました。ふるさとの山を写生した丘には同じ山の違う顔の作品が十数点紹介



ニース シヤガール美術館ホール
ステンドグラスを背景に
ヴァイオリン・ソロ演奏中

介されてきました。

一変して、ルーブル美術館は広くて、絵が大ーきくて、でもモナリザは、思ったより小さかった。絵の前には囲いがあってガラスの中に収まっています。やはり人だかりです。それから、美術館の中で本物の絵を模写している人が数人いました。審査を受けて許可をもらった人ができること。本物と違う大きさを描くそうです。モネの家では一部屋の壁全部に浮世絵のコレクションが飾られていたのは驚きました。そんなこんなで8日間はあっという間に終わりましたが、思い出がギュー！とつまった旅になりました。

モン・サン・ミッシェル

十和田市 元ホキン子

第3回海外研修旅行に初めて参加させていただきました。

オプシオンで参加したモン・サン・ミッシェルは、フランスで最も有名な巡礼地であり、世界遺産の島で、宗教、軍事建造物と民家が一方所に集まって中世の面影を後世に伝えている場所でした。印象深いところを2、3カ所上げると、まず石の建物の色合いの美しさ、妙に安らぎを与え和ませてくれることでした。次に、囚人達が食糧を運搬する大



世界遺産モン・サン・ミッシェル
駐車場より望む

車輪を動かしていたことや王や貴族がタペストリーで仕切りをして石の上に休んだ南棟の宿泊施設には驚きました。

最後に大型オムレツです。4人で一個を切り分けていただいたのですが、何もつげなくてもとても美味しかったです。

何もかもこの島にすっかり魅了されて、今はキャンバスに向かっています。この旅行に携わった皆様に感謝の気持ちで一杯です。

楽しかったパリ

青森市 雪田千代

長年憧れていたフランス、ルーブル美術館、オルセー美術館、それにマルモタン、オランジュリー、セザンヌなど西洋の文化に触れて、本当に夢のような8日間でした。外国に行く日本の良さがわかると言いますが、日本の文化も世界に誇れることに気がつきました。モネの家の庭園、浮世絵、陶磁器など日本にいる錯覚を覚えました。

先日、テレビでフランス料理世界大会に日本の懐石料理を取り入れ、アイデア賞に輝いていました。その時、パリの街並みも放映され、見てきたばかりなので、改めて今回の旅行の楽しさを思い出し、嬉しくなりました。

腰痛と冷房に弱いので、着物で行きましたが、ビジネスや観光で来ていた人達がトーキョウ、キョウトなど手振りで話しかけ、フランス語はもちろん英語も一言も言えない不勉強の自分をくやしく思いました。

最年長で腰痛持ちにもかかわらず、一生の思い出となる旅を楽しく過ごさせて下さったスタッフの皆さん、参加された皆さん、ありがとうございました。

次回はロシアとの声もあがりましたが、小学校5年まで樺太で過ごし、ロシア語でカチューシャを歌ったことがあり、ぜひ参加したいと思えます。それまで体を鍛えておくつもりです。

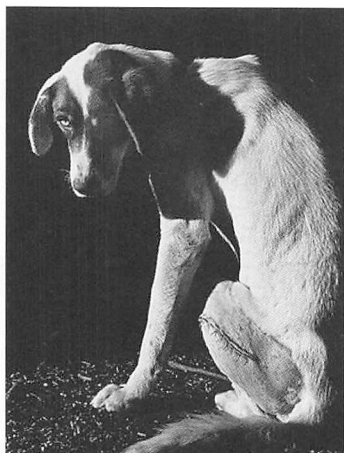


ルーブル美術館で記念写真。ダ・ヴィンチ・コードでも話題の逆さピラミッド前で



大正15年に創設された写真愛好家の団体・全日本写真連盟全日写連が主催する「国際写真サロン」は、プロ・アマ、国内外を問わず応募できる、国内では最も権威ある写真コンテストとして知られ、審査会において選ばれた入選作品が全国各地で巡回展示されています。第67回展へは、海外38カ国・地域から4,650点、国内は3,227点、総計7,877点の応募があり、最高賞である審査委員特別賞6点を含む、入選130点が出展されました。

当館では、第57回展から開催している恒例の写真展で、毎年多くの美術ファンを楽しませてくれています。



▶第67回国際写真サロン
審査委員特別賞「悲しみ」竹尾康男

秋の特別展 ～其の1～

11月3日(土)～11月18日(日)
第67回国際写真サロン展
第5回女性写真公募展
毎週月曜日休館

▼女性写真公募展へ、青森県から初となる入選が選出されました!おめでとございます!!



▲第5回女性写真公募展
入選「餅つき踊り」
小橋順子(青森県野辺地町)

「写真サロン展」に併催して「第5回女性写真公募展」から入選作品50点を紹介いたします。

Information ◀◀◀◀◀◀

●入館時間●
10:00～17:30(閉館は18:00)

●休館日●
毎週月曜日

●入館料●
一般/600(480)円
学生/300(240)円
小中学生/100(80)円

※()内は20名様以上の団体、県民カレッジ受講者、JAF会員割引料金。
※友の会会員の皆様は特典とお喜び入館いただけます。

●展示替えのための臨時休館●
10月30日(火)～11月2日(金)

「国際写真サロン」女性写真公募展

Information ◀◀◀◀◀◀

●入館時間●
10:00～17:30(閉館は18:00)

●休館日●
毎週月曜日(祝日の場合は火曜日)
年末年始(12/30～1/2)

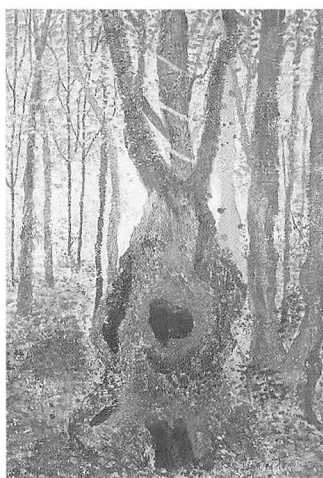
●入館料●
一般/500(400)円
学生/300(240)円
小中学生/100(80)円

※()内は20名様以上の団体、県民カレッジ受講者、JAF会員割引料金。
※友の会会員の皆様は特典とお喜び入館いただけます。

●展示替えのための臨時休館●
11月20日(火)～11月23日(金)

「鷹山賞児童作品展」世界児童画展

▶第6回鷹山賞児童作品展小学生の部
鷹山賞受賞「クヌギの木」
三春綺華さん(三戸町立名久井小、当時5学年)



秋の特別展 ～其の2～

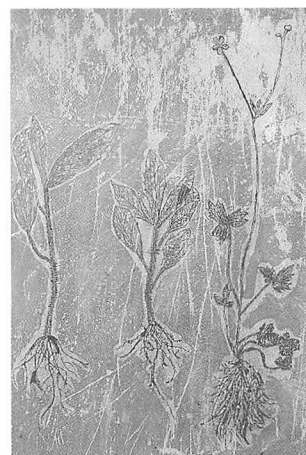
11月24日(土)～11月27日(日)
第7回鷹山賞児童作品展
第7回地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展
毎週月曜日休館

第7回展となる本年も、青森県南部地方の小中学生から続々と力作が寄せられています。本展では10月中旬の審査会を経て選出された、鷹山賞を頂点とする入賞・入選作品約100点を紹介します。

また併せて、日本品質保証機構が主催する「第7回地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展」を開催します。

地球環境や自然の大切さを再確認してもらおうと、世界各国の子どもたちから作品を募集する本展は、子どもたちの純粋で希望に満ちた心がとらえた地球環境や自然を、絵画を通して自由に表現してもらおうというものです。国内外の優秀作品から約70点を紹介します。

鷹山宇一の作品を、多感な少年時代を過ごした彼のふるさとで鑑賞する時、その原風景が風土の中に存在していることに気付かされます。「子ども感性は風土の中で培われる」との精神の下、制作体験を通して自由な創造の喜びを味わってもらおうと、七戸町教育委員会と共に主催して、小中学生を対象とした絵画コンテスト「鷹山賞児童作品展」を立ち上げました。



▶第6回鷹山賞児童作品展中学生の部
鷹山賞受賞「生命」
村松斉実さん(三沢市立第五中、当時2学年)

レポート!!夏の特別展

50日間の会期中の終入館者数
●●●●●一五、九一三人

元氣100倍! やなせたかしの世界展

やさしいライオンからアンパンマンまで愛と勇気やさしくあふれる原画たち

短い青森の「夏」だけれど、素敵な思い出として心に刻まれる「夏」でありますように...そんな願いを込めて、鷹山宇一記念美術館では、青森の子どもの夏の思い出づくりに「アート」で協力しよう!と、子どもと大人が時間を共有できる美術館を目指し、ご家族のコミュニケーションの場としての特別展を開催しています。

今年、テレビや絵本でも大人気の「アンパンマン」の生みの親・やなせたかし先生の多彩な世界をご紹介します。「元氣100倍!やなせたかしの世界展」を開催しました。

本展が「美術館デビュー」のお客様も多かったのではないのでしょうか?

連日、小さなお子様を連れただお父さんお母さん、おじいさんおばあさんが笑顔で訪れてはまた笑顔でお帰りになる。「愛」と「やさしさ」に満ち、ほほえましい光景が広がる鷹山美術館となりました。7月15日(日)〜9月2日(日)まで、50日間の会期中の様子を、写真を交えてご紹介いたします。

7/14(土)開催式・テープカット



▲左から、当館名誉館長・鷹山増子、やなせスタジオディレクター・平野大二、青森県知事代理・森田孝衛、鷹山生活文化課長・中村満義、七戸町長・福士孝衛、七戸町議会議長・田中正樹、当財団理事長・青山浄晃

作品をお貸し出しいただいたやなせスタジオから、ディレクターの平野大二氏をお迎えして、開催式・テープカット・レセプションパーティーを行いました。開催式では、やなせたかし先生から、「ここには難しい絵は一つもありません。絵の中にある詩や空気を感ずて、楽しく、面白く、見てもらえたらとてもうれしいです。」と、肉声を吹き込んだテープによるご挨拶も頂戴しました。当日は友の会会員をはじめとする招待客70名が参集し、開幕を祝いました。

お子様専用レーン登場!!



「やなせたかしの世界展」では、幼稚園・保育園世代のアンパンマンファンのお子様のご来館が多く見込まれましたので、通常の作品の高さでは、大人と子どもの身長差が作品鑑賞に大きな支障をもたらすと考えました。そこで、作品の高さを通常より10センチ低く設定すると共に、小さなお子様も鑑賞しやすいよう高さ15センチの「お子様専用レーン」を設置しました。作品とお子様の距離も縮まり、大きな子どもを抱っこせず作品鑑賞ができる、と、特にお母さんたちには好評でした。

8/18(土)入館者1万人突破



1万人目の入館者となったのは、栃木県的小太刀玲央君一家4人。夏休みを利用して青森県を旅行中の出来事でした。

町内外の幼稚園・保育園の子どもたちがアンパンマンに会いに来てくれました!



中庭のキャラクターたちも大人気でした◎

7/15(日)第1号のお客様



弘前市からご来館くださいました斉藤和佳子さん。

「君もやなせたかしだ!」



アンパンマンに登場させたいオリジナルキャラクターを考えよう!

いつでも誰でも自由に参加できるワークショップ「君もやなせたかしだ!」を開催しました!描いてくれた作品たちは館内に展示。その展示枚数は663枚!思い思いに考案したキャラクターが勢揃いしました。

「やなせたかしの世界展」お客様からの感想をほんの一部ですがご紹介いたします

●アンパンマンをつくったやなせたかきさん、たくさんのやさしさをありがとうございます。

【三沢市・8才の女の子】

●単に悪いことをやっつけるのではなく、本当の強さとは、やさしさとは、宝物とは…と、人生の大切なことを教わっています。やなせたかさんの「アンパンマンのマーチ」は深いです。ト何のために生まれて何のために生きるのかト問い続けています。夏ハテの心に元気をもらいました。

【弘前市・46才女性】

●高知のアンパンマンミュージアムへ行くのが夢でした。とても遠くて行けないと半分諦めていました。夢を叶えてくれて有り難うございます。【八戸市・39才女性】

●やなせたかきさんはアンパンマンだけでなく、違う本や絵を描くことを子どもが知ることができ、とても良い機会となりました。前回、保育園児を連れて仕事として来ましたが、子どもたちは2、3日、アンパンマンについて大喜びでした。

【七戸町・36才女性】

●友達が泣いたという話をしていたので、果たしてそんな内容なのか、と思っていました。私にも感動しました。【青森市・49才男性】

●今までに読んだことのないお話が原画で展示され、久しぶりに読み聞かせをしてしまいました。子どものレーンがあつたので子どもも見やすく、親も抱っこをせずに済んだのが良かったです。【弘前市・48才女性】

●温かな心になりました。人に優しくありたいと反省しております。【十和田市・55才男性】

●5才と3才の孫と一緒に見させて頂きました。何気ない絵本と思っていたら、やなせたかさんの素晴らしい心があふれた世界。涙が出るほど感激でした。優しい気持ちになりました。

【青森市・61才女性】

●本当に細かい部分に至るまで子どもが来ることを想定した準備、テーブルの角のクッションガードから、お子様レーンからさすがの企画でした。

【三沢市・41才女性】

●1才2ヶ月の息子が最近おしゃべりを始めアンパンマンと片言で言うようになりました。そんな息子に…と来館。息子もさることながら、家族みんな温かい気持ちになることができました。息子と娘のニカツ◎という笑顔が嬉しかったです。

【七戸町・34才女性】

●素直な、純粋な、でも胸に刺さる痛みを感じました。何気なく過ごしているこの時間、一緒にいる人、自然…大切にしながら思っていました。アンパンマン、やなせたかさんパワートってすげえ!!

【東北町・25才女性】

●ゆったりとした気分で楽しむことができました。子ども用の台はとても良かったと思います。広々として明るいし、自然もあり、また足を運びたい美術館です。

【十和田市・65才女性】

●子どもの目線の高さで見られて良いし、かも強い規制がないため、小さな子ども連れでもゆったりとした気持ちで見られる。県内では子ども連れで見られる美術館があまりない中、こういうチャンスは有り難い。

【弘前市・33才女性】

●会場で見かけた子どもたちがとても楽しそうだったのが印象的でした。静かにしていなければならぬ美術館はそんなイメージが強いですが、賑やかなのも素敵ですね。

【青森市・28才女性】

子どもたちのための
ワークショップから
Report!!
●●●●●
いちょうこらぶ
あ〜っと!こらぶ

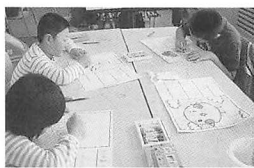
「美術館いちようこくらぶ」からは、7月31日に行つた『きみもやなせたかきしだー』の様子をご紹介します。

これは、7月15日〜9月2日まで開催

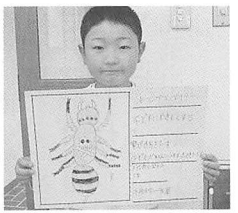


「美術館いちようこくらぶ」からは、7月31日に行つた『きみもやなせたかきしだー』の様子をご紹介します。

まず始めに、「ハピーの大冒険」というアンパンマンの絵本原画を鑑賞し、本当の勇気とは何か、本当の強さとは何か?についてみんなで考えました。その後、自分だけのオリジナルキャラクターを考案し、水彩クレヨンを使って画用紙に描きました。描くものが決まってくると、みんなの集中力は一気に頂点へ。最後まで丁寧な作業が続きました。



一生懸命描いた作



品は、これも愛と勇気とやさしさあふれるキャラクターばかりでした。

「美術館あつちようこくらぶ」からは、7月21日、28日、8月8日の3回に渡つて行つた「白黒版画をつくってみよう」の様子をご紹介します。

この教室では、版画の一番の基本となる「白黒の木版画」を3日間かけて行いました。講師は元奥入瀬小学校校長の藤合芳雄先生です。



版画は下絵が命。下絵が完成すれば、90%は終わったようなものです。下絵の題材は、好きなものや、心に残っている思い出など自分の想いが詰まっているものが多いこと。



このこと。題材が決まったら、これを画面いっぱいまで大きく描く。これが木版画制作の重要なポイントとなります。あとは地道な彫りの作業と丁寧な刷りの作業です。個性が光る素敵な作品が完成しました。



● 美術館日誌 ●

【6月】

- ▼1日/青森ペティクラブ25名様「来館。弘前日専連29名様」来館
- ▼2日/十和田吾郷熟年クラブ30名様「来館。友の会第3回海外研修旅行(南仏パリ)へ出発
- ▼5日/鷹山館長青森市出張(青森県生涯学習審議会出席)
- ▼8日/佐伯エデューケーター神奈川県藤沢市・横浜市へ出張(レッジョ・エミリア教育視察ほか)
- ▼9日/七彩会油絵教室。友の会海外研修旅行参加者帰国
- ▼10日/「アートになった椿展」最終日、会期中の入館者数8、203人
- ▼11日/「椿展」町内老健施設無料開館日
- ▼12日/展示替えのため臨時休館(15日迄)。「やなせたかしの世界展」作品集荷。佐伯エデューケーター地域教育力推進協議会へ出席(七戸庁舎)
- ▼13日/「椿展」作品搬出。「やなせたかし展」作品搬入。美術館消防設備定期点検(昭和電気)
- ▼14日/大池学芸員東京出張(「椿展」作品返却立ち会い)。美術館冷暖房切替、点検(オキタ工業)
- ▼16日/友の会総会
- ▼17日/鷹山館長八戸市出張(八戸東高校同窓会にて講演)
- ▼19日/鷹山館長、大池学芸員青森市出張(青森放送株式会社へ「椿展」御礼)。美術館自動ドア定期点検(ナブコ)

- ▼20日/美術館電気設備漏電検査(佐藤電気)
 - ▼21日/鷹山館長八戸市出張(八戸関税会にて講演)
 - ▼22日/大池学芸員青森市出張(あすなろマスターカレッジ運営委員会)
 - ▼23日/七彩会油絵教室
 - ▼28日/鷹山館長八戸市出張(八戸水産高校にて講演)
 - ▼29日/青森県教育委員会による公益法人の業務等の立入調査
 - ▼30日/いちようっ子クラブ「イチヨウの絵本ができるまで①」開催。友の会会報47号発送作業
- ## 【7月】
- ▼1日/七彩会油絵教室
 - ▼3日/展示替えのため臨時休館(14日まで)。「やなせたかし展」ポスター納品、発送作業。あーっと！くらぶ木版画教室打合せのため講師の藤谷芳雄先生「来館」
 - ▼7日/鷹山館長東京出張(秋山庄太郎美術館開館記念式出席)。佐伯エデューケーター青森市出張(青い森ファウンド中間報告)
 - ▼9日/鷹山館長青森市出張(青森放送株式会社との打合せ)
 - ▼10日/鷹山館長野辺地町出張(野辺地町立若葉小学校にて講演)
 - ▼11日/「やなせたかし展」CM制作のため館内撮影、打合せ(RAB十和田支局、RABサービス)
 - ▼13日/やなせスタジオディレクター平野大二様「来館、作品展示状況を確認」
 - ▼14日/「やなせたかし展」開催式
 - ▼15日/「やなせたかし展」初日

- ▼17日/七戸町立城南小学校6学年児童引率教員40名様「来館」
- ▼18日/七戸町・明照保育園園児引率保育士39名様「来館」
- ▼19日/七戸町立城南小学校4学年児童引率教員46名様「来館」
- ▼20日/鷹山館長、大池学芸員青森市出張(「やなせたかし展」PRのためRABテレビ生放送出演)
- ▼21日/あーっと！くらぶ「白黒版画をつくってみよう①」開催
- ▼23日/七戸町・城南保育園園児引率保育士80名様「来館。佐伯エデューケーター十和田市出張(上北地方図工教育夏季研修会視察)
- ▼25日/鷹山館長青森市出張(青森印刷協会講演)。七戸町立天間東小学校児童保育クラブ児童引率者47名様「来館」
- ▼26日/鷹山館長「虫歯予防ポスター」審査七小にて。東通村立老部小学校児童引率教員53名様「来館」
- ▼28日/あーっと！くらぶ「白黒版画をつくってみよう②」開催
- ▼30日/RABラジオ「やなせたかし展」を取材、レポーターけんずるうが生中継
- ▼31日/いちようっ子クラブ「君もやなせたかしだ！」開催

【8月】

- ▼1日/開館記念日。夜7時まで延長開館。七戸町民広報無料招待券利用日(利用者144名)。七戸町教育振興会23名様「来館。RABラジオ「やなせたかし展」を電話生取材」
- ▼3日/青森県立郷土館学芸員對馬氏「来館(郷土館主催企画展「花の肖像画」へ鷹山作品出品依頼)
- ▼5日/遠野市・七戸町児童交流事業参加児童引率教員等62名様「来館。「やなせたかし展」を鑑賞、銀細工を体験」
- ▼8日/あーっと！くらぶ「白黒版画をつくってみよう③」開催
- ▼9日/七戸町立天間西小学校児童保育クラブ児童引率者63名様「来館」
- ▼11日/博物館実習生を受入(奥山庸子さん、日本大学芸術学部4年、8/24迄)
- ▼17日/博物館実習生を受入(伊藤太陽君、北里大学獣医学部5年、8/26迄)
- ▼20日/いちようっ子くらぶ「葉脈でしおりをつくる」開催
- ▼21日/青森県立七戸養護学校生徒引率教員15名様「来館」
- ▼22日/天間みどり保育園園児引率保育士25名様「来館」
- ▼23日/からまつ寮3名様「来館」
- ▼24日/花松青森市出張(公益法人研修会出席)
- ▼27日/青森県議会総務企画委員会県内調査のため28名様「来館」
- ▼28日/青森県立七戸養護学校生徒引率教員5名様「来館」
- ▼29日/十和田曙学園園児引率保育士15名様「来館。十和田市立法奥小学校児童引率教員21名様「来館」
- ▼30日/おいらせ町あおぞら保育園園児引率保育士30名様「来館。七戸町立城南小学校3学年児童引率教員41名様、2学年児童引率教員49名様「来館。青森県立養護学校生徒引率教員14名様「来館」
- ▼31日/七戸町立城南小学校1学年児童引率教員48名様「来館」

(財)鷹山宇一記念美術振興会
常務理事 濱中 達 男

昭和十一年二月一日の十和田国立公園誕生は、幡山の感性と強い郷土愛によって成就されましたが、国内情勢としては二・二六事件が起こり、この事件を境に日本はファシズムへと傾いて行くことになり、ますます非常時体制を強め、戦争へとめり込んで行く年でもありました。



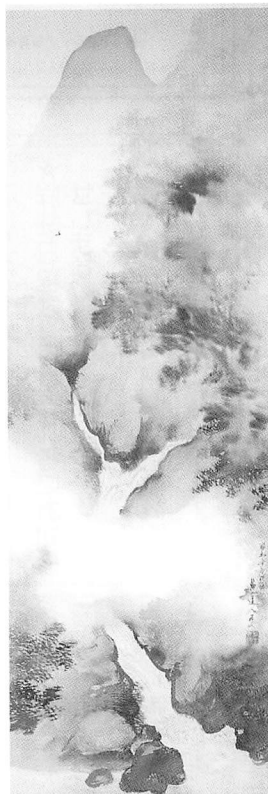
幡山筆「浦小嶋秋色」(絹本着色)
※「青森県近代日本画のあゆみ展図録」より転載

しかし、戦時下においても幡山は国立公園内に留まらず、北東北三県を視野に入れ、独創的発想をもって開発を提案し続けます。

戦後十三年を経て、齢八十三歳となった幡山は「回顧六十年」を出版し健筆を披露して、現在の私たちに貴重な資料となっています。

世界大戦開戦の昭和十六年以降、幡山の足跡を辿ってみますとー

- ・ 昭和十六年(六十六歳) 五月、「神国日本に再頭せるイエスキリスト」発行。
- ・ 昭和十七年(六十七歳) 四月、「追憶三紀行」発行。
- ・ 八月、秋田県大湯の環状列石を訪れ、「吾忘我絵帖」に黒又山の絵(天承之奇端/光芒之旗幟)怪光を描く。
- ・ 第二回岩手美術連盟展に出品。
- ・ 昭和十九年(六十九歳) この頃より、約八年間長野県穂波温泉に滞在。(師・廣業縁の温泉)
- ・ 昭和二十年(七十歳) 妻の巨子「五・二五東京山の手大空襲」で罹災、帝大病院で死去。
- ・ 昭和二十九年(七十九歳) 「十和田湖の今昔」を「東奥日報」に掲載。
- ・ 昭和三十年(八十歳) 「日本のキリスト」を出版し、晩年は、三戸郡新郷村戸来のキリスト伝来説を世に紹介するのに専念した。
- ・ 昭和三十一年(八十一歳) 三月、「故小笠原なか子刀自」出版。



幡山筆「奥入瀬溪流(十和田湖)」
※絹本着色
鷹山宇一記念美術館収蔵

- ・ 昭和三十三年(八十三歳) 「回顧六十年」を出版。
- ・ 昭和三十四年(八十四歳) 弘前図書館で画会開催。
- ・ 昭和三十五年(八十五歳) 七戸町「翁草会誌」(植泰造主宰)第三号に「郷土の事でも二つ三つ」寄稿。
- ・ 昭和三十六年(八十六歳) 東京で幡山道人純日本画個人展覧会を開催。
- ・ 昭和三十七年(八十七歳) 七戸町「翁草会誌」第五号に「在りし昔を偲び、懐旧の数々」と題して寄稿。
- ・ 昭和三十八年(八十八歳) 米寿記念に「神日本とイエスキリスト」を著す。
- ・ 昭和三十九年(八十九歳) 九月、「翁草会誌」第七号に、「川柳について」を寄稿し、文末に、「我れは今半めくらに半壁り、之が又絶句で絶筆とぞ思う」とある。
- ・ 昭和四十一年(九十一歳) 二月二十日逝去。

(白雲院幡山覚翁居士)

(略歴終わり)

七戸に生を受け、絵を描く才能に恵まれ、画家を志して上京した幡山を取り巻く明治中期の状況は、押し寄せる西洋文明の影響を受け、様々の分野で日本の変革期でありました。絵画の分野でも「西洋画」の概念が導入され、それまでの伝統的水墨画の絵画表現を、「西洋画」に対して「日本画」という表現をするようになります。江戸時代末期からマンネリ化していた伝統絵画もまた日本画という概念のもとで変革を迫られます。

幾多の試練を経て、幡山の行き着いた境地は、中国の文人画・南宗画の影響を受けた日本南画の池大雅たちの理念に傾倒して行き、「真景画」という描画の心構えに達したことでした。そしてテーマを(神苑)十和田湖に絞り描き続けました。

最晩年は、七戸町の老人会の会誌「翁草会」に寄稿され、昔のこと、郷土の思い出、近況などが書かれていて、ことを成し遂げた人の心境が窺われます。

つづく

【次号最終回】

西山美術館

～Information～

- 開館時間／11:00～17:00
- 休館日／月・火曜日（祝日・振替休日は開館）
- 入館料／大人 1,200円
15歳以下無料
※インターネット割引券有り
「チケット割引券」ページをプリントアウトして持参すると1,000円に割引
- 交通案内／東京都内から
☆電車／小田急線が便利
新宿駅→鶴川駅下車
鶴川駅より
・バス
・タクシー（10分）
- レストラン・ショップあり
- つつじ4,000株、梅・松・桜など130種、3,500本の植栽を施し四季折々の散策を楽しめる庭園があります。
- 問い合わせ先／
☆住所：〒195-0603
東京都町田市
野津田町1000番地
☆電話 042-708-2480
☆URL
http://www.2480.jp
☆E-mail:2480@2480.jp

おすすめ美術館 ロダンとゴッホ専門 西山美術館

東京都町田市に平成18年4月28日にオープンした「西山美術館」を紹介します。

この美術館の3大特徴は、第1にロダンの彫刻とゴッホの絵画作品、第2に4,000坪の散策できる日本庭園、第3にマイセンのカップで飲むコーヒーと案内されています。

収蔵品数は、ロダンの彫刻52点、ゴッホの作品76点で、国内ではロダンが3番目、ゴッホは一番の収蔵品数とのこと。ゴッホはフランスのゴッホ美術館に次ぎ、世界で2番目のコレクションとファンにとってはたまらない美術館でしょう。

特にロダン作品では「考える人」、26歳の時のデビュー作「鼻のつぶれた男のマスク」、「バルザックの胸像Ⅲ／Ⅳ」、ゴッホ作品では「白の時代」の作品が19点、色彩の時代やモンマニー時代の油彩、素描、生涯でたった3個しか描けなかった壺絵など見応えのある作品が展示されています。

また、毎日曜日は午後2時から館長レクチャーが行われます。都心から1時間位で行けるので、多摩丘陵に連なるゆったりとした空間で、優雅に1日を過ごしてみても如何でしょうか。



西山美術館（ホームページより転載）

研修旅行のお誘い

今秋の研修旅行、青森市内の美術館を巡ります。

県立郷土館では、素朴なタッチのマジック画や豊かな色彩感覚のびのびとした表現の貼り絵作品により「日本のゴッホ」「放浪の天才画家」と呼ばれた山下清の世界に触れていただきます。棟方志功記念館では、画伯の文人達との交遊、独特の文章、物語や詩を題材とした板画、「大和し美し」、「女人観世音板画巻」などの秋の展示をお楽しみ頂きます。

平日の実施となりますが、会員のご参加をお待ちしております。

★研修先 青森市内

★日時 平成19年11月14日(水)

9時出発／16時30分解散

★募集定員 30名

★参加費 3,000円(入館料、昼食費、交通費を含みます)

★研修美術館

○青森県立郷土館

「放浪の天才画家 山下清展」

○棟方志功記念館

「秋の展示 詩歌を背景に」

★募集締切 平成19年10月20日(土)

(定員になり次第締め切りますので、お早めにお申し込み下さい。)

★詳細日程は、後日参加者にお知らせします。

★お申し込み・お問い合わせ先

鷹山宇一記念美術館

電話 0176(92)500500

新規会員登録のお誘いと会員登録更新のお願い

★芸術の秋となりました。会員の皆様には、鷹山宇一記念美術館への入館と新規会員のお誘いをお願い申し上げます。

▽一般会員
会費(個人)

年度会費 3千円

▽特別会員
会費(個人・法人)

年度会費 1万円

▽賛助会員
会費(個人・法人)

年度会費 2万円

※詳しくは、美術館までお問い合わせ下さい。

編集後記

★研修旅行バスの借入条件が厳しくなり、今秋は、平日の実施となりました。今後の検討課題です。

★次回の海外研修旅行は！オランダ？ロシア？……？
★いま巷で大流行のピリィ？？？。なかなか続けられません。暑い季節のせいにして、笑われました。やはり、「継続は力なり」か。

(E.T.)